に熱中していた。が，受験が近づき，気候も寒くなると欠席が目立つ。そこには，受験勉強や寒さを克服する価値は見られないのか。

部活動にしても全クラにしても，そのサークルに登録した生徒が一つになれないのである。その価値を，遊びにおく生徒もいれば，体力づくりに，語らいの場に，そして心からそれを愛して，と様々である。だから仲間意識もうすっぺらなものとなり，その場限りのものとなってしまう。サークル活動は学年も成績も超越して活動するところに意義があるのだが，一つのサークル内でも多層化した生徒間でのギャップからまとまりを欠き，ついには部活動全体の停滞化となってきているようである。

が，とにかく高校70％中学80％の生徒が何らかの形で部活動をやろうとしているのだし，全クラに至っては全員が参加する正規時間内の活動であるのだから，散在している彼らを，興味を持続させながら正しい方向に導き，最終的に一つの輪の中に団結させてゆくことができたらと思うのである。

さてそれでは部活動と全クラとの関係はどのような相互の影響があるのだろうか。本校においては全クラを導入して今年で四年目を迎えている訳であるが，はたして全クラ自体本校のカリキュラムの中において高度な教育的側面としてどのような役割を果しているのか，その測定はちょっとやそっとでは出来ないというところが現在の四年目の状態であろう。しかしながら，全クラも五年目を過ぎるころとなればやはりその時点で一応それなりの評価をいろんな角度から資料を集めデータを分析してまとめてみることは大いに重要なことであろう。

全クラの部活動に対する影響というものは，極めてはっきりと数字顕著に出て来ている。それは言うまでもなく全クラの導入以来生徒の部活動登録人員の数が目に見えて減少していく傾向にあるということである。このことはいろんなことを意味していると考えられるが，まず第一にはっきりと言えることは，生徒の全クラに対する考え方がわれわれ教師が全クラに対して持っているイメージと少なからずずれがあるということであろう。その辺の考え方を両者共一致する方向へもっていかなければ全クラを何年間やってもそれ相応の効果は得られないであろう。いやそればかりかかえってマイナスの面の方が大きいように思われてならないのである。第二に重大なことは何故全クラ導入以来部活動の衰退が顕著になって来たかということである。このことはわれわれ当研究グループの非常に大きな研究課題で二年前からこの問題と真向から取組み研究を進めて来ている訳だが深く研究が展じていけばいくほどことの重大さをいやというほど思い知らされるような気がしているのが正直なところである。ただ単にこれは全クラが入ってきたからその結果として部活動の衰退があると言い切れないところにこの問題の難しいところがある。

それでは部活動の衰退に少なからず影響を及ぼしてきた全クラをただいたずらに白眼視するのではなく，もっともっと前向きの姿勢でこれからの部活動と全クラのあり方を考えていく決め手は何か，われわれはもっともっと地道にこの解決方法を求めて最大の努力をつづけて行かなければならないと考える。その一つの方策として部活動を活発化させる手段に全クラを逆に利用していくというやり方にももっと力を注いではどうだろうか。ただしこの方法をとっていこうとするならば今以上に部活動に対する教育的意義とか部活動の本来の目的とか言ったようなことをもっともっと研究しなければ全クラのねらいとするところの本質も根底からくつがえってしまうことにもなりかねない。

Ⅲ　小文化祭・文化祭の報告

徳井輝雄

われわれは，すでに，学校行事に対する考え方や，文化祭における自主性を尊重した指導の具体例について報告した。①②

ここでは，50年度の小文化祭（中学単独），文化祭（中・高合同）について，中学の動きに重点をおきつつ，中・高併設校における学校行事のあり方，生徒会のあり方について考察をすすめる為の資料を提供する。この内容は，まさに多層化の中の生徒指導の具体例を示すことになる。

① 学校行事の批判的検討　本校研究紀要第18集（1972）P. 57

② 生徒の自主性を生かした生徒会指導の試み　本校研究紀要第20集（1975）P. 26

1）小文化祭

1－1）中学小文化祭の本校における由来と変遷のあらまし。

昭和22年　本中学校創立。学芸会が行われる。

昭和25年　本高校創立。中学独自の文化祭が行われる。

昭和37年　第一回中高合同の小文化祭が行われる。体育系部（当時クラブ）の他校（金大附高）との定期的対抗戦が行われるようになった。それにともない文化系部の交流も兼ねた。美術部や無線部等の交歓が行われた。

昭和46年　その対抗戦がなくなった。小文化祭の性格は，その後しだいに変化し，中学独自のものとなった。文化系部やクラスの劇等の発表が行われるようになる。秋の文化祭に

対して，春の文化祭といった色調をもつようになる。教師側は，中学生徒会が，高校生徒会に頼らず，独自に主催する唯一の生徒会行事としての意義を認めつつも，年々低調になっていく傾向に対して，有効な手だしを講じえないまま，現在に至っている。

1－2）小文化祭の現状　――50年度より――

プログラムの主な内容は，クラス発表（劇4つ，合唱2つ），映画会，個人発表（ギター演奏と歌 2グループ）といったものである。詳細は資料1参照。

当日は低調そのものであった。とくにクラス発表は，準備不足が目立ち，出演者の技術的未熟さと見る側の態度の悪さが悪循環し双方にむなしさが残った。

生徒の反省。「出演者が下手だから，見る側がダレてしまう」「見る側がわるいから，出演者もやる気をなくす」「劇などの練習不足」「マイクロフォン操作に手落ちがあった」「劇の練習にクラスが非協力的であった」「今年のようなら本来はやりたくない」「個人発表を多くしたりバザーをやりたい」秋の文化祭に対しては，「拡声装置の取扱いを，放送委員は十分修得してほしい」「劇などの練習を十分する」

教師側の反省。「生徒が消極的で内容がまずしいから意義がみとめられない。従ってやめてしまおう。」「中学生徒会が独力でやる唯一の行事だからもっと強力に指導すべきだ。」その強力な指導とは，技術面では「マイク，照明装置等の操作」「クラス発表の練習場面での担任の指導助言」「リハーサルの組識」「劇の見本を教える」内容面では，「生徒会員が能動的に参加できる催物，たとえばフォークダンスや大合唱などや文化的な展示会などの強化」

1－3）小文化祭の問題点

低調さの原因として次のものがあげられる。

① 小文化祭で何を狙うかという教師集団の認識不足。

② 担当教師集団― 生徒部― の指導の弱さ。

③ クラス（H・R）における担任の指導の弱さ。

とくに①が低調さの根本原因の一つになっている。小文化祭の意義は，中学生の生徒会活動を活発にする機会にすることにあるとしてはいるものの，やはり関心はないのである。中学高校併設校においては，高校生の活動がどうしても活発になり，それに振りまわされ，教師の関心はそちらに向けられがちになる傾向をもつ。教師も高校教師という意識が強い。次には討論時間の不足があげられる。日常の多忙さに流されてしまう。さらに，われわれの教科中心主義があげられる。これは中学の小文化祭に限らず，生徒会活動全般に対する無関心や無理解からきている。ひいては学校とは何を行うところかという議論へと発展していくものである。

2）文化祭（中・高）

2－1）文化祭の経過

準備の初期段階では，高校生が独走した。高校文化委員会では文化祭の意義や性格をめぐって討論が行われた。学園祭として楽しむことを強調するか，文化祭として，何かテーマを追求するかが論議の中心になった。学園祭を主張する側は，例年文化祭と銘うってやっているが，内実は遊びの部分が多いから，いっそすっきりとまつりに位置づけて楽しもうではないかというものである。

結局名称は文化祭としたものの，テーマは決めず，バザー（模擬店）を大幅にふやした内容へと進展していった。

文化祭の路線に関する討論は，学園祭か文化祭かといった抽象論議のまますすめられたため，2学期に入っても路線は確立しないまま文化祭当日へと追い込まれていった。映画は何にするか，講演のテーマは何にするかといったプログラムの具体化の中で，文化祭の基本路線に関する討論をすすめていけばよかった。現に映画や講演のテーマを決める段になって，テーマ不在の，楽しむだけの文化祭にむなしさや不自然さを，一部の生徒達は感じたようである。

高校生の反省をあげると。(プログラムは資料2参照)

① 文化祭の性格について。

学園祭とする事により遊びの要素を大にしたい。

文化祭というものは半強制的にやりたくない。楽しくやりたい。

文化祭とは名ばかりであった。実際は遊びだった。やはり，学校という場を考えると，文化祭として文化的行事をやりたい。

② 休日を日程の中に含めたことについて。

他校との交流という点で良かった。

今のような内容では，外部の人に見せてもしかたがない。

③ プログラムとの内容について。

講演……話は面白かったが，文化祭（全体）とのつながりが難しい。まえもってテーマをきめておくべきだった。

映画…… 自由参加で見た人が少なかった。

分科会……他学年との交流がよかった。テーマはもっと具体的に。(資料4参照)

音楽コンクール……高校は良かった。中学はダメだった。照明など任務分担が決まっていなかった。性格をはっきりさせたい。

バザー……良かった。休日には活気があった。来年は1クラス1バザーとしたい。

棒の手……文化祭らしい催物であったが見る人は少なかった。

④ 全体として。

成功であった。それは楽しかったこと，休日の入ったこと，学校がにぎやかになったことがいえる。来年度は，展示，個人発表をふやしマンネリ化を防ぎたい。土日にやってほしい。

教師（担当者）の反省と報告

① 準備段階

中・高文化委員会の足並みそろわず。

文化祭の基本絡線が2学期に入るまで確立せず。

② 分科会

テーマ設定に問題あり，討論できるテーマをえらぶこと。資料4参照。

③ 部・クラブの発表展示の状況

部……演劇，茶道，ブラスバンド，美術（先生の個展も）アマ無線。

全クラ……公害研究，科学史，園芸，レクリェーション，数学パズル。

同好会……コンピュータ，プラモデル，文化芸術，落語。

④ 音楽コンクール……高校各クラスのとりくみ良し。昨年より質・内容は向上。

⑤ 棒の手……尾張旭市の無形文化財，今後も郷土芸能を入れたい。

⑤ 全体として……休日の外来者約700名。服装はグループ毎に異装届。

文化委員会と執行部の連携がうまくなかった。

2－2）中学からみた文化祭

資料3でもあきらかなように，小文化祭があるため中学は立遅れてしまう。したがって2学期になり，本格的に文化祭への取り組みができるようになった頃にはすでに高校がひいた路線にしたがわざるをえなくなる。ここですでに中学の発言する機会が少なくなる。

中学独自の企画としては，討論会があげられる。今回は，テーマを「先生について」と決め，全員の作文の中から文化委員の選んだ数篇で文集を作り，当日の資料とした。当日は代表者によるパネルディスカッションを企画したが，マイクロフォン操作の不手際で失敗に終った。小文化祭での教訓を，教師，生徒共に生かすことができなかった。

中学生の文化祭に対する反省

① 討論会

マイクロフォン等放送委員会の準備不足

やる気がみられない。

② 講演会

内容がわからない。内容は面白いが周囲がさわがしくなり聞えなくなって面白くなくなった。

③ 音楽コンクール

高校と一諸にやりたかった。高校が音楽コンクールをやっている間，何をしてよいかわからなかった。

④ 全体として

中・高文化委員会の連絡をよく。全員参加のものをはっきりきめておく。春・秋どちらか一方にしたい。中学としては春に重点をおきたい。

成功しない理由，中学生にはシラケがある。高校生のように意欲が湧かない。反省会が十分でない。その反省がうまく生かされない。高校生に頼っていてなかなかヤル気が起らない。自由主義的で，中学全体としてのまとまりがない。クラスとかグループでのまとまりはあるが。

2－3）中・高合同文化祭の問題点

13歳から18歳までが参加する文化祭はどうあるべきかという基本問題が存在する。

映画1つえらぶにしても，昨年度の「男はつらいよ」では中学1年はつまらないし，本当の笑いを味わえない。本年度の「野生のエルザ」では，高校生はつまらなく感ずる。講演会の内容も同様の悩みがある。われわれはまだこの良い解決策を考え出していない。

実行や準備段階では，中高の連携を常に心にとめておく必要がある。前述したように，われわれ教師は，上級生（高校生）に基準をおきがちになるし，上級生にかかりきりになる。生徒の方も下級生（中学生）は上級生を頼りとしている。ところが上級生は，下級生をお荷物として感じ，独走しがちになる。

高校生が中学生を助けるように，中学生が自主性をもつように，われわれ教師が指導しなくてはいけない。結局中・高の連携は教師集団の指導如何にかかっている。単に行事を簡単にすませるためにのみ合同という形に意義を認めている段階では解決されない。

中・高合同会催のよい点は何なのか，その積極的意義を見出すことが急務である。これは中・高一貫教育の利点は何か，単層化ではなく多層化の中で教育することの利点は何なのかという問題に通ずるものをもっている。

3）資　　料

＜資料1＞中学小文化祭のプログラム（50年度）

6月27日

8：40　開会式　生徒会長　文化委員長あいさつ

9：00　クラス発表

12：00　昼食

12：40　演劇部発表「野菊の墓」

13：20　映画「黒潮丸」「北洋海難」16㎜

14：20　個人発表

＜資料2＞　文化祭プログラム（50年度）

<table>
<tr><td colspan="2">11月3日(月)(文化の日)</td><td>日時</td><td colspan="2">11月4日(火)</td></tr>
<tr><td>体育館</td><td>教室</td><td>会場</td><td>体育館</td><td>教室</td></tr>
<tr><td colspan="2">開会式（全）</td><td>8：40
9：00</td><td></td><td>S・T</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">講演
「本能社会と文化社会」
京大名誉教授
日本モンキーセンター
所長　宮地伝三郎先生</td><td>10：00</td><td rowspan="2">討論会
（中学）</td><td rowspan="2">分科会
（高校）</td></tr>
<tr><td>11：00</td></tr>
<tr><td rowspan="2">映画
「野生の
エルザ」</td><td rowspan="2">個人発表</td><td>12：00</td><td>ブラスバンド部
発表</td><td rowspan="3">個人
発表
展示
バザー</td></tr>
<tr><td>13：00</td><td>演劇部発表
（中学）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">演劇部
発表
（高校）</td><td rowspan="3">バザー
無形
文化財
棒の手
バスケット
コート
※</td><td>14：00</td><td rowspan="2">音楽コンクール
中学（全員）
高校（全員）</td></tr>
<tr><td>15：00</td></tr>
<tr><td>展示</td><td>16：00</td><td>閉会式（全員）</td></tr>
<tr><td colspan="2">あとかたづけ（全員）</td><td></td><td colspan="2">あとかたづけ</td></tr>
</table>

※雨天時 12,40から体育館　　↓営火祭↓

＜資料3＞　中学生徒会・文化委員会を中心にしてみた，小文化祭，文化祭の準備経過概略

50年

5／30　生徒議会　文化委員会と執行部の協力体制の下に，小文化祭を開催することを決定。

6／3　文化委員会　執行部合同委員会　プログラム案を作る。弁論大会　フォークダンス　個人発表　部発表　クラス発表　映画会等の催物案が出る。

6／6　文化委員会　プログラム案作る。

6／10　生徒議会　プログラム案可決。
クラス発表については中1を除き消極的なるも教師の指導でプログラムの一部となる。

6／11　文化委員会　任務分担

6／16　文化委員会　映画の候補を出す。ガラパゴス，南氷洋捕鯨。しかし映画会社の都合でこれは実現せず。

6／27　小文化祭当日

7／1　生徒議会　小文化祭の反省　秋の文化祭について。

9／4　文化委員会　高校の作ったプログラム案提示される。

9／9　文化委員会　文化祭を行うことを審議可決。
高校より音楽コンクールは中高別にやりたい旨申し出がある。

9／12　文化委員会　文化祭を中・高合同で行うことを決める。
高校にならい統一テーマは持たないことにする。
音楽コンクールは中・高合同でやりたいが，高校側がどうしてもいやならやむおえないとする。
食品バザーはしない（教師の指導による。）

9／16　文化委員会　文化祭討論会のテーマ案出る。
先生について，公害について，戦争について，中学生の恋愛について，制服について，ゴキブリ退治について，国家資源の重要性について。

9／16　中・高合同文化委員会　プログラム案の審議
映画のリストアップ

9／17　文化委員会　任務分担

9／27　中学生徒会後期役員選挙

9／30　中・高合同文化委員会　音楽コンクールの件

10／13　文化委員会　討論会テーマ「先生について」を決定

10／14　生徒議会　文化祭プログラム案可決

11／1～11／2　文化祭当日

11／11　生徒議会　文化祭の反省。

＜資料4＞高校分科会討論テーマ（50年度）

1. 自衛隊の是非
2. 三億円事件
3. 女性の魅力
4. 制服問題
5. いかに生きるべきか
6. 人類滅亡の危機
7. 天星制について
8. 映画論
9. 生きのこるには
10. 非　行
11. 教師はいかにあるべきか
12. 今やっておくこと
13. 幸福な結婚とは
14. 宗　教
15. プロ野球
16. 高校生活の意味